

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

4月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

4月の報告数は261件（前月比0.1、前年同月比0.2）で、1月をピークに3ヶ月連続して減少しました。今年は昨年に比べて1ヶ月ほど早く流行が終息したようです。県全体の4月の定点あたり報告数は3.3で、阿蘇（11.0）、宇城（9.5）、人吉（9.2）で比較的多く検出されていました。

小児科定点

（全体傾向）

4月の報告数は2,769件（前月比0.53、前年同月比0.63）で、前月に比べて大幅に減少しました。主にインフルエンザ、感染性胃腸炎の報告数が減少したことが影響しています。A群溶血性連鎖球菌も減少していました。一方、手足口病が3月よりも3.5倍に増加し、ヘルパンギーナ、突発性発疹も増加していました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数は61件（前月比0.5、前年同月比3.8）でした。例年は1月から4月にかけて報告数が漸減しますが、今年は2月、3月に報告数の増加が見られました。4月は再び減少しましたが、前年同月よりは多い報告数です。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数は62件（前月比0.8、前年同月比0.7）で、例年よりも少なくなっています。1歳児が全体の半数を占めています（31/62）。県全体の定点あたり報告数は1.2で、八代（2.8）、有明（2.8）からの報告が多いようです。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数は264件（前月比0.7、前年同月比0.6）でした。例年同様に4月に報告数が減少しています。県全体の定点あたり報告数は5.3で、宇城（9.0）でやや多くなっています。3歳、4歳をピークに、幅広い年齢層から検出されています。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数は1,439件（前月比0.8、前年同月比1.1）で、前月よりも減少していますが、前年と比較するとほぼ同じ報告数です。県全体の定点あたり報告数は28.8で、山鹿（53.0）、有明（51.8）、菊池（50.2）が多いようです。1歳が最多で、1歳～5歳で全体の半数を占めました（794/1439）。
5. 水痘 : 報告数は37件（前月比0.9、前年同月比0.5）で、4月としてはこの5年間で最も少ない報告数です。県全体の定点あたり報告数は0.7で、1.0を超えたのは宇城（2.3）、八代（1.8）でした。年齢層では4歳から6歳が半数を占めました（20/37）。
6. 手足口病 : 報告数は263件（前月比3.5、前年同月比1.3）で、4月は前年同様に増加傾向にあります。県全体の定点あたり報告数は5.3で、宇城（25.8）、菊池（11.4）からの報告が多くなっています。1歳児が最多で、2歳、3歳児の報告も多いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は6件（前月比0.9、前年同月比0.4）で、前年と同様の水準です。熊本3件、菊池3件の報告がありました。
8. 突発性発疹 : 報告数は164件（前月比1.3、前年同月比1.0）で、1月から報告数が増加傾向にあります。県全体の定点あたり報告数は3.3で、菊池（5.4）、宇城（4.5）で多いようです。
9. ヘルパンギーナ : 報告数は36件（前月比1.5、前年同月比1.0）で、前月より増加しています。県全体の定点あたり報告数は0.7で、報告が多いのは天草（7.0）のみです。年齢層では1歳、2歳児での検出が多くなっています。

10. 流行性耳下腺炎 : 報告数は20件(前月比1.1、前年比0.2)で、今年に入っても報告数の少ない状況が続いています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数30件(前月比0.6、前年同月0.6)と減少しています。熊本27件、有明3件の報告です。20~49歳にピークが見られますが、70歳以上にも多発の傾向が見られます。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数46件(前月比0.9、前年比1.2)で、前月比では減少、前年比では増加しています。男女別は、女性に25件と多く見られました。年齢別は、男性は20~29歳に12件と多く、女性は20~24歳に12件と多く見られています。地区別は、熊本が28件と多く、次いで宇城5件、菊池4件、八代、有明各3件、御船に2件、人吉1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数15件(前月比0.8、前年比0.7)で前月比、前年比とも減少しています。男女別は、男性に9件と多く見られました。年齢別は、男性は20~64歳、女性も30~70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が10件と多く、次いで八代3件、菊池、有明に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数6件(前月比0.5、前年比1.0)で、前月比では減少、前年比は同数でした。男女別は、男性に4件と多く見られました。年齢別は、男性の25~70歳以上に、女性は20~24歳に見られています。地区別は、熊本3件と多く、次いで御船、八代、宇城に各1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数17件(前月比0.8、前年比1.1)で、前月比では減少、前年比では僅かに増加しています。男女別は、男性16件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性は20~59歳に、女性は50~54歳に見られています。地区別は、熊本14件と圧倒的に多く、次いで宇城に3件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数20件(前月比1.3、前年同月比0.9)でした。14件(70%)が70歳以上と高齢者に多く、5-9歳、55-59歳が各2件でした。阿蘇、人吉、有明が各3件(定点あたり3.0)、熊本8件(定点あたり1.6)が多くなっています。ここ2年と同程度の推移です。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :
報告数4件(前月比1.3、前年同月比0.7)でした。ここ2年と同程度からやや少なめに推移しています。1-4歳が2件、70歳以上が2件です。地域は熊本3件(定点あたり0.5)、有明1件(定点あたり1.0)です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :

報告数1件（前月比 +1、前年同月比 +1）でした。約1年ぶりの報告です。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数3件（前月比 3.0、前年同月比 0.4）でした。大きな増加はありませんがここ4ヶ月で7件とやや多くなっています。すべて熊本からで、5-9歳、35-39歳、45-49歳各1件の報告です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数1件（前月比 0.3、前年同月比 0.5）でした。前月の4件より減りましたが、ここ2年、夏場に増えていますのでこれから要注意です。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数0件（前月 -2、前年同月 -5）でした。4ヶ月間、ここ2年より少なく推移しています。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月、前年同月に同じ）でした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）： 報告数13件（前月比 1.1、前年同月比 0.3）でした。ここ2年より少ないものの春になり増加しています。6月ごろまで多い時期であり注意です。すべて熊本からの報告で、0歳1件、1-4歳8件、5-9歳4件の報告です。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	25件
3類感染症	： 細菌性赤痢	1件
4類感染症	： A型肝炎	1件
	重症熱性血小板減少症候群	1件
5類感染症	： カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	ジアルジア症	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
	水痘（入院例）	2件
	梅毒	3件
	百日咳	5件